

# 県立図書館だより

令和5年11月

青森県立図書館報 第47号

「富士には、月見草がよく似合ふ。」（太宰治「富嶽百景」より）



山梨県富士河口湖町の「天下茶屋」と名物「ほうとう」

「天下茶屋」は昭和9年に店を構えた茶屋で、峠を行き交う旅人に食事などをふるまったのが始まりとされています。「富士には、月見草がよく似合ふ。」の名文句が広く知られる太宰治の「富嶽百景」は、富士山を一望できる御坂峠のこの「天下茶屋」に太宰が約3か月滞在したことにより生まれました。山梨の地で太宰は石原美知子と出会い、結婚後はその短い人生の中で心身共に最も安定した時期を迎えます。「ほうとう」と聞き、「僕のことを言っているのか」と不機嫌になった太宰ですが、店主が「ほうとうは甲州の郷土料理である」と説明したところ、安堵して喜んで食し、好物になったそうです。どうやら太宰は「放蕩息子」の「ほうとう」と勘違いしていたようだ、と店主が語っていたそうです。今年の県近代文学館の企画展は「あおもり文学食堂」と題し、「食」という切り口から、青森に関わる作品や作家、文学に関わりのある食品などを紹介します。

## 目 次

「天下茶屋」と「ほうとう」	1
企画展「あおもり文学食堂」	2
ようこそ文学館へ！近代文学館資料の紹介	3
こどものひろば「大きな文字の本コーナー」	4
ご存じですか？この人・この資料～郷土資料の紹介～	5
カウンターからひとこと	6
県立図書館の利用案内	7



# 企画展「あおもり文学食堂」



いつの時代も生活の中に必ず存在する「食」という切り口から、  
青森に関わる作品や作家、文学に関わる食品等をご紹介します！

○会期：令和5年12月7日（木）～令和6年3月10日（日）

※休館日：12月28日～1月3日、1月10日、1月25日、2月22日

○場所：青森県近代文学館 企画展示室（青森県立図書館2階）

○開館時間：9:00～17:00（観覧無料）

- 展示構成 （1）作家と食
- （2）郷土の食
- （3）描かれる食
- （4）まつわる食

## ◎文学ゼミ「あおもり文学食堂」

日時：1月7日（日）14:00～15:00

場所：青森県立図書館4階研修室

講師：文学館職員

内容：開催中の企画展「あおもり文学食堂」の展示内容について、  
展示の担当者が詳しく解説します。

☆文学ゼミ参加者には「文学館オリジナルクリアファイル」をプレゼント！

◆最新情報は当館ホームページにてご確認ください。◆



## ようこそ文学館へ！

### 近代文学館資料の紹介(第46回)

## 企画展「あおり文学食堂」展示資料から

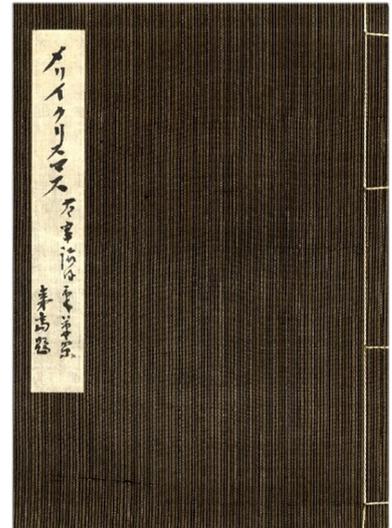
青森県近代文学館では令和5年12月7日から令和6年3月10日まで、企画展「あおり文学食堂」を開催します。今回は展示資料の中から、太宰治原稿「メリイクリスマス」と、三浦哲郎色紙「鱈汁には肝を入れるのがこつだえ おふくろの言葉」をご紹介します。

#### ①太宰治原稿「メリイクリスマス」

昭和22年に発表された「メリイクリスマス」は、津軽に疎開していた主人公が1年3ヶ月ぶりに東京に戻り、半月ほどたった12月の話です。少女時代に可愛がり、何年も会わないうちに大人に成長したシヅエ子と、東京郊外の本屋で邂逅した1日が綴られています。主人公はシヅエ子を持って鰻屋の屋台に入りますが、この鰻屋のモデルは、太宰が三鷹で最賃にしていた鰻屋・若松屋です。

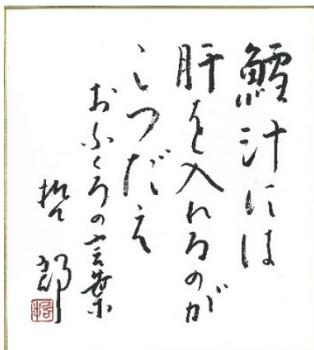
太宰は午後3時まで仕事をし、その後は決まって若松屋で酒を飲むという生活をしていました。また、親しい友人や出版社の打合せの待ち合わせ場所にもしていたそうです。

この原稿は、太宰が祖母・イシから譲り受けて着用していた着物の切れを用いて和綴じ装されたもので、製本は川越清雅堂によるものです。表紙の「メリイクリスマス 太宰治 肉筆草本／夷斎題」は、戦前・戦後を通じて交流のあった作家・石川淳の揮毫です。なお、この原稿は1枚目が欠けていて、そこには表題と書出しの文章があったと思われます。



#### ②三浦哲郎色紙「鱈汁には肝を入れるのがこつだえ おふくろの言葉」

八戸市出身の三浦哲郎の作品には、食べ物と母親がよく登場します。料理が上手だった母親ですが、脳血栓による半身不随で晩年の5年間は郷里の病院で寝たきりの生活を送っていました。三浦は毎月1度帰郷し、母親を見舞い、その言葉を手帖に書き留めていきました。「去年の春先、おふくろの枕許で、山菜のたらの芽をどっさり採ってきた話をしてやったときのことである。おふくろは、しばらくの間きょんとしていたが、やがて動く方の腕を私の首に巻きつけて引き寄せると、耳に口をつけて、「鱈汁には、肝を入れるのが、こつだえ」といった。」（「御存命」より）



魚好きで魚料理も得意だった母親は、山菜の「たら」のことを魚の「たら」と勘違いし、息子に鱈汁づくりの秘訣を伝授したのです。

母親の死後、三浦は何度となく手帖を開いてこの言葉を思い返しているうちに、小説作りに通ずるものを見出していったそうです。

「小説も鱈汁とおなじように、見た目には小奇麗で口当たりのいい切身のような具ばかりでは、こくが出ない。五臓六腑を注ぎこまなければ読者を堪能させるような味は出せない。」（「御存命」より）

# こどものひろば



## 大きな文字の本（大活字本）コーナー

児童閲覧室に「大きな文字の本（大活字本）コーナー」を設置し、「大きな文字の青い鳥文庫」（講談社）を並べています。



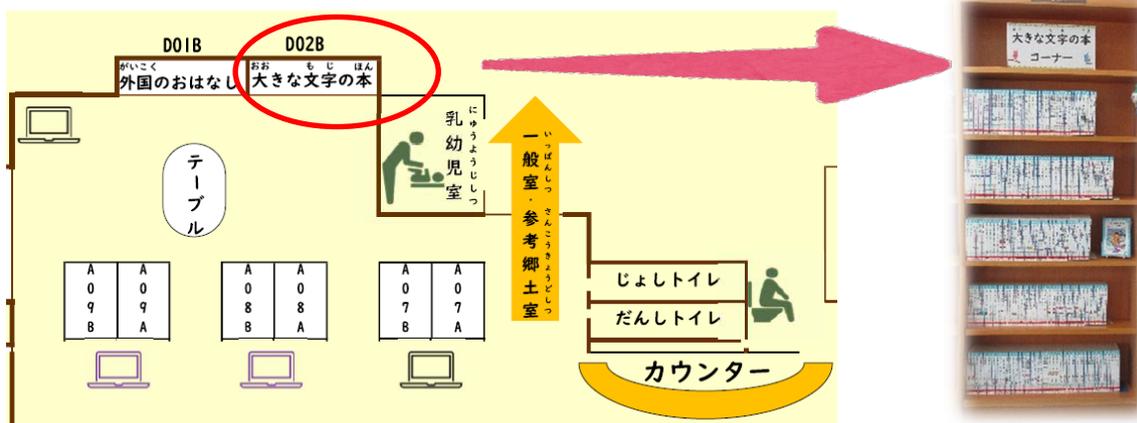
大活字本って何？

大活字本とは、視力が弱い方にも読みやすいように、大きな活字で印刷した本です。

「大きな文字の青い鳥文庫」の文字は、このページの文章と同じくらいの大きさとなっています。（一般的な文庫本の文字サイズは、このくらいの大きさです。）

実際に本を手にとってみてくださいね！

### 〈大きな文字の本コーナーの場所〉





今年9月に全国公開された映画「バカ塗りの娘」は、青森県出身の高森美由紀さんが2014年に出版した『ジャパン・ディグニティ』を映画化したもので、青森県弘前市を舞台にした津軽塗職人の父娘の物語を描いています。

津軽塗の起源は江戸時代初期の元禄にさかのぼります。当時の弘前藩四代藩主津軽信政は、藩の産業と文化の活性化を図るために、諸国から様々な職種の工人を弘前に招き入れました。このとき、弘前にやって

きた若狭の塗師池田源兵衛が漆器の汚れを落とそうと砥石で磨き、偶然できた極彩色の模様が津軽塗（唐塗）の原型となったといわれています。（『手のひらの仕事』奥山淳志著 岩手日報社 2004.12）

現在、津軽塗には四つの技法「唐塗」「セタ子塗」「紋紗塗」「錦塗」があり、いずれの技法も合計で40～50工程と手間と時間をかけて丁寧に仕事をして初めて完成することから「津軽の馬鹿塗り」という異名がついています。

今回は津軽塗関連の資料をご紹介します。

**『ジャパン・ディグニティ 新版』（高森 美由紀著 産業編集センター 2023.7）**

本小説は2014年に出版され、「第1回暮らしの小説大賞」を受賞。今回の映画化に伴い、本小説のほかに特別書き下ろしのアフター物語「あとは漆がうまくやってくれる」（42p）を収録しています。

**『第7回東奥文学賞大賞 漆花に捧ぐ』（日野 洋三著 東奥日報社 2023.6）**

江戸時代中期に、弘前藩で津軽塗の原型を作った塗師池田源兵衛を父に持つ池田源太郎の物語。源太郎は父の意志を継ぎ、数々の困難に直面しながらも家族の献身的な支えにより、津軽塗につながる独創的な技法を築きました。

**『漆の森、津軽塗へ』（八木橋 廣写真 白神書院 2019.10）**

江戸時代から代々受け継がれた技術を保存し、後世に伝えようとしている津軽塗職人の兄たちの話を写真とともに綴った写真集。

匠たちが魅せる技、作品に命が吹き込まれる瞬間、作業中の風景、弘前の強く美しい自然…一枚一枚の写真が美しく、強く訴えてくるものがあります。

**『あっぱれ!津軽の漆塗り』（佐藤 武司著 弘前大学出版会 2005.3）**

江戸時代にはじまり、明治時代を経て現代に至るまでの津軽塗の歴史、塗の呼び名、津軽塗の各技法にまつわる話や工程について綴られています。

今回ご紹介した資料は、いずれも貸出が可能です。どうぞご利用ください。

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様にも広くご利用いただいております。

# カウンターからひとこと (第45回)



今回は、当館利用者からのよくある質問と回答をご紹介します。

Q1：利用者カードを作りたいのですが、どのような手続きが必要ですか？

A1：運転免許証などの氏名と住所を確認できる書類をお持ちになり、当館備え付けの「利用者カード申込書」にご記入のうえ、カウンターにお申込みください。なお郵送、あるいは電子申請による方法もありますので、ホームページの利用者登録をご覧ください。

Q2：利用者カードを忘れた場合、本を借りられますか？

A2：「利用者番号確認票」に、お名前と電話番号をご記入の上ご提出ください。当日のみ利用者カードの代わりにご利用いただくことができます。「利用者番号確認票」は、各種書類記入席または各カウンターにありますので、お尋ねください。

Q3：検索したら、所蔵場所が「書庫」や「集密」となっていたのですが・・・

A3：所蔵場所が「書庫」、「集密」となっている資料は、閉架書庫にございます。カウンター職員がご用意しますので、お声がけください。

## ●ホームページにもよくある質問を掲載しています

URL (<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/user-guide/qestion/post.html>)

上記以外の質問も掲載しています。掲載位置は以下のとおりです。

- ・トップページ内のピックアップ>よくある質問
- ・トップページ>利用案内>よくある質問



## 令和5年度利用案内

- **開館時間**
  - 一般閲覧室、参考・郷土室 午前9時から午後7時まで
  - 児童閲覧室 午前9時から午後5時まで
  - 近代文学館 午前9時から午後5時まで
- **休館日**
  - 年末年始 令和5年12月29日から令和6年1月3日
  - 特別蔵書点検期間 令和5年5月22日から5月25日まで  
令和5年11月30日から12月6日まで
  - 館内整理日 毎月第4木曜日（11月のみ第5木曜日）
  - サービス活動点検・検討日 4月3日、奇数月第2水曜日
- **貸出点数・期間**
  - 1人 10点まで ※ CDなどの視聴覚資料を含みます。
  - 2週間 ※ 他の方の予約がなければ、期間の延長ができます。
- **住所・電話番号**

〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7

  - 一般閲覧室 TEL 017-729-4300
  - 参考・郷土室(レファレンス) TEL 017-729-4311  
FAX 017-762-1757
  - 図書館事務室 TEL 017-739-4211  
FAX 017-739-8353
  - 企画支援課 TEL 017-739-1456
  - 近代文学館 TEL 017-739-2575
  - 開館時間・休館日・展示のお知らせ TEL 017-729-4111
- **ホームページ**

<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/>



## 令和5年度行事予定

- **図書館の行事**
  - おはなし会 第2土曜日 午後2時から2時30分まで
  - おしえて先生！知るしるする探検隊 第4土曜日 午後2時から2時30分まで  
(12、3月を除く)
- **近代文学館の行事**
  - 特別展「あおもりのえほん」 7月1日～10月9日
  - 企画展「あおもり文学食堂」 12月7日～3月10日

図書館だより 第47号  
令和5年11月2日発行  
編集・発行 青森県立図書館